

- 1 派遣期日 平成23年11月22日（火）
2 研修先 学校名 横浜市立三ツ沢小学校
所在地 横浜市神奈川区三ツ沢中町4-17
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitsuzawa/>

3 研修内容

横浜市立三ツ沢小学校 研究発表会

テーマ 豊かな学びを創り出し、未来を拓く子をめざして

～自然と自らかかわり、科学的に考えを深め合う学習の創造～

(1) 子ども主体の授業づくりについて

当校は、子ども自身が作る学びに価値をおき、一人ひとりの思いや気付き、思考を大切に学習展開を考えている。また、自分の学びに対するふり返りを大切にし、自分が何を学んだかを自覚すること（メタ認知）をめざしている。そこから次の学びや生活へつなげられるようにしている。

〈取り組みの例〉

- 毎時の明確な評価基準と評価計画
- 個の学習に応じた指導の工夫
- 板書・発問計画
- 学習の流れ
- 身に付けたい力の定着と子どもの学習状況を支える座席支援表
- 自己評価（ふり返り）相互評価（学び合い）

(2) 「言語活動」の充実を図る取り組みについて

当校は、学びの中で記録したり表現したり思考を深めたりする活動を大切にし、言語活動の一層の充実を図ることにより、子どもたちが、自然の事物・現象に対して主体的にかかわり、「表現」したり「討論」したりしながら考えを深め合うことができるようになると考えている。

生活科における「言語活動」とは、言葉や文での表現活動にとどまらず、言葉や歌、絵、身体などを使った表現なども含めたものととらえ、特に「感受・表現」を重視している。そこで育てた基盤の上に理科における言語活動がより充実していくと考えている。

理科における「言語活動」は、自然の事物・現象から読み取り、科学的に考えを深め新たな概念を構築していく中で、言葉や絵、図、表、グラフ、さらには身体表現を含めた表現方法を用いて表現することであるととらえている。特に、子ども一人ひとりが考えを持ちながら、科学的に深め合っていくために「解釈・説明」「討論・協同」を重視している。

〈取り組みの例〉

- 各学年の学習内容に即して、身につけさせたい概念や言葉を一覧にし、指導の共有をはかっている。（例えば3年生では、「色」「大きさ」「あたたかい」「どう線」「しりぞけ合う」「手ごたえ」などという言葉の一覧表を作成している。）
- 子どもが考えを深めるために、どの単元でも使いたい文型を表に示している。（例えば6年生では「AがBだったので、CはDだと思う」「結果が予想通りAだったので、Bになると考えられる」といった文型を表に示している。）
- 「解釈・説明」の場面での手立ての研究
 - ・問題解決の場面に応じたワークシート
 - ・目的に応じた観察カードのかき方
 - ・イメージ図やモデル図の活用
 - ・複数の記録を比較しながらの読み取り
 - ・グラフ、表の活用
 - ・ノート指導

- 「討論・協同」の場面での手立ての研究
 - ・掲示物（表）の工夫と活用（板書を模造紙に書いて残す等）
 - ・子どもの予想と実験結果の視覚化
 - ・情報交換の方法
 - ・情報交換の場の位置付け
 - ・情報交換カード
 - ・意見のつなぎ方
 - ・モニター（視聴覚機器）
 - ・掲示による学級での子どもの思考の流れの確認
- 活動や体験の充実を図る
 - ・繰り返し対象にかかわる活動の重視
 - ・対象と十分にかかわれる場の保障
 - ・自分ごととしてかかわれるような工夫
 - ・子どもの実態に応じた複数のワークシートの作成
 - ・子どもによるワークシートの選択
 - ・子どもの気づきの質を高まりを促すための見とりと支援
 - ・絵や言葉、具体物を使うなど多様な表現方法での伝える活動
 - ・保護者ボランティアの協力体制
- 生き生きと表現する
 - ・相手や目的を明確にした活動
 - ・個の思いを大切にした表現方法での選択
 - ・興味・関心に応じたグループ活動
 - ・学習形態の工夫

（３）自然とかかわり問題意識をもちながら追求できる教材開発について

当校は、子どもたちの思いや気づき、思考の根拠となる材を見つけ、それをどう教材化していくかを研究している。教材を開発する際には、その教材を通じて問題意識をもったり、単元を通してより学びを深めていけるものになるように尽力している。

〈取り組みの例〉

- 材の価値を生かす
 - ・材の価値の見極め（子どもの興味・関心によるものか。問題解決につながる展開になりえるか。活動に広がりが見られるものか。活動が実際に活動可能か。安全か。日程はどうか。）
 - ・材の扱い方の工夫
 - ・子どもにとって最適な材を位置づけた年間カリキュラム作り

（４）子どもたちが日常的に自然や科学に親しむことができるような校内環境整備について

当校は、日常子どもたちが生活している場で、科学的興味をもったり自然と親しんだりできるような環境を整えている。

〈取り組みの例〉

- 校内掲示板の活用（学習内容の掲示や、花委員会・ほたる委員会・飼育委員会・子ども水族館委員会の広報活動）
- ほたるドームやペンギン池の整備，活用（ほたる愛育活動等の取り組み）
- 水田の整備，活用（稲の栽培，水田に集まる生き物の観察）

４ 感想

三ツ沢小学校での取り組みは、児童の一人ひとりが、「次はこうしよう、今度はこれができるようになりたい」と考え、なりたい自分を目指して努力する子を育てる実践であると感じた。また、学びが学校に閉じることなく、「まち・人・自然」とのかかわりにおいても主体的に働きかけることができるような子を育てるために、学校が一丸となって努力していることが、公開授業や参考資料、学校の様子を見て感じられた。

三ツ沢小学校が、多くの方法論を編み出し実践している根底には、自分の学びに対するふり返りを大切にし、自分が何を学んだかを自覚すること（メタ認知）の方法論があったので、自分自身としても研究を深めていきたい。